2026WORLD ROWING UNDER19 CHAMPIONSHIPS REPORT 6 (8/6)

8月6日（木）

いよいよU19世界選手権が開幕しました。ここ十数年で大規模な国際大会を何度も開催し安定した運営を見せているプロブティブのローイングコースも一段と活気づいてきました。行われているレースは熱戦となるものが多く、U19日本代表クルーも熱戦の中に飛び込み、プロブティブの強い日差しに負けない熱いレースを繰り広げました。

～出艇までの流れ～

熱気あふれるボートパークを通過して出艇桟橋に向かいます。

審判のチェックを受けます。

その後出艇前に係の方からバウナンバーとGPSを取り付けてもらいます。

いよいよ出艇。水上アップをしながらスタート地点へ向かいます。

JM2x 予選 (Heat)

1日2レースを行うことを考慮し、前日の昼過ぎに開幕日の最初の種目となる変更がありましたが、1組目からかなり激しいレースが展開され、日本が入った6組目も同様となる覚悟を持って挑みました。

スタートからトルコが高いレートで飛び出しレースを引っ張る形になる。トルコを追うようにしてルーマニア、ブラジル、日本、そして地元ブルガリアが続き500mを通過。日本はトップを走るトルコとは5.43秒差のものの、着順で準々決勝（以下QFとします）進出が決まる2位に位置するルーマニアとは2.09秒差の4位と好位置につける。

第2クオーターに入ると、日本よりも1～2枚高いレートで漕ぎとおすルーマニアとの差が徐々に開きはじめ、日本は同じくルーマニアからは少し遅れ始めたブラジルとの3位争いの様相となってきた。第3クオーター、日本は粘りに粘りこの500mでは組全体のトップのラップタイムで先行するブラジルをじりじりと抜き去り3位に上がる。ここでは当然トップトルコとの差も開いていない。そして第4クオーター。一度抜き去ったはずのブラジルが先に仕掛け一度はわずかに抜かれたが、ラストスパートでブラジルを再度抜き返し3位でフィニッシュ。

着順でのQF進出とはならなかったが、タイムで午後にあるQFに進出することとなった。

ゴール手前でブラジル（手前）と激しいデッドヒートを繰り広げるJM2x クルー。（写真左から）B 一瀬選手（若狭高校）、S 首田選手（富山国際大学）

JW1x 予選 (Heat)

スタートからスロベニアとAIN2が飛び出し、ベルギーと日本、モロッコが追う展開でレースが始まった。500mの通過では日本は1位を走るスロベニアとは5.76秒差の4位ではあるが前を伺うチャンスは十分にある。第2クオーターに入ると、3位ベルギーとの差も徐々に開き、単独4位で前を追いながら後半に入る。レースはベルギーが先行する2艇との差を徐々に詰め三つ巴の戦いになり、観客席も盛り上がりを見せた。日本は先行する3艇を必死に追いつつも差は開き、4位でフィニッシュ。しかし粘り強く漕ぎ続けたことが功を奏し、全体18位でQF進出を果たすこととなった。

1800m地点を力漕するJW1x 梶選手（立教大学）

JM1x 予選 (Heat)

イタリアとスイスがスタートから先行し、エストニア、少し離れて日本、モロッコが追う展開でレースが始まる。
500mの通過はトップイタリアとは6.35秒差で通過。前を行くエストニアとは3.66秒差と何とか食らいつきたいところ。第2クオーターも日本はよく粘ったが、先行するクルーとの差はさらに開き、3位エストニアとも6.06秒差と開いた。トップとは約10秒差となる。トップ争いはスイスがイタリアに並びかけ盛り上がる。第3クオーター、日本はさらに粘り大きくタイム落ちすることはなく持ちこたえるが、状況は変らずそのまま第4クオーターへ。第4クオーターでも状況は変らないものの、最後までしっかりと集中して漕ぎ4着でフィニッシュ。着順でのQF進出はならなかったが、全体18番目のタイムでQF進出をきめた。

スタンド前でスパートを入れるJM1x 佐野選手（岡谷南高校）

JM2x 準々決勝 (Quarterfinal)

準決勝（Semifinal）に進むには避けては通れない道。予選タイムから厳しい戦いになることを想定し挑んだ。スタートはほぼ横一線。そこから予選タイム全体1位のニュージーランドをはじめ各国が主導権を握ろうとするが、日本もその中に入って良くついている。500mの通過はニュージーランド、アイルランド、チリに続きトップと2.95秒差、準決勝通過ラインとなる3位チリとは1.19秒差と好位置につける。第2クオーターでも日本はよく戦っているが、次第にチリとの差がじりじりと開きはじめ、5位を走っていたノルウェーに並ばれる。第3クオーター、逆風が吹きはじめスピードが伸びてこないところで上位との差はさらに開き1500mでは3位チリとは約10秒離れウズベキスタンにも抜かれた。第4クオーター、最後まであきらめない姿勢でラストスパートをかけ必死に追いかけるものの届かず6位でフィニッシュ。前半から非常によく戦ったがFinal Dに進むことになった。

レース序盤、チリに並びかけるJM2xクルー（手前）。（写真左から）B 一瀬選手（若狭高校）、S 首田選手（富山国際大学）

8月7日（金）の予定

◎現地時間　9:20　JM2x　Final D
JM2x　首田 笙（富山国際大学）、
一瀬 弥満登（若狭高校）

◎現地時間　10:20　JW1x
Quarterfinal 3
JW1x　梶 ひまり（立教大学）

◎現地時間　10:41　JM1x
Quarterfinal 3
JM1x 佐野 天里（岡谷南高校）

日本とブルガリアの時差は6時間です。
引き続き、チーム一丸となって戦ってまいりますので、ご声援よろしくお願い申し上げます。